

関西四大学「薬物に関する意識調査」集計結果 報告書

2015年11月

近年、大学生の大麻等不正薬物の所持・乱用による事件事故が相次いで発生したことから、特に若年層における薬物汚染が大きな社会問題に発展しました。警察庁の調べによると、2009年の大麻摘発件数をピークに大麻事犯の検挙人員は年々減少を続けていましたが、2014年は5年ぶりの増加に転じ、同年における全薬物事犯の13.4%を占め、覚せい剤事犯に次ぐ薬物事犯として高比率で推移しています。また、大麻事犯の検挙人数は長期的には減少傾向にあるとはいえ、20歳代以下の若年層の検挙人員は依然として高い構成比率で推移しており、その多くが初犯者であるとされています(2009年の大学生大麻事犯検挙人員は81名であり、そこから毎年減少し、2013年では23名となりましたが、2014年は27名と増加に転じました。)

こうした状況の下で、薬物に関する教育活動が各大学において重要な課題となっていますが、2009年3月7日、関西四大学は、薬物乱用防止に関する共同声明を発表しました。健康で充実したキャンパスライフを学生に保障するとともに、より広い視点に立ち、安全・安心の社会を実現するための教育・研究、そして社会的な活動が大学の使命ととらえ、薬物乱用防止のための恒常的・経常的かつ組織的な啓発活動を行い、広く社会に向けてその活動を展開していくことを宣言しました。

その具体策として、共同のアクションプランを企画し、共同声明の発表以降、3つのアクション「委員会の開催・設置」、「教育・調査活動」、「広報活動」を柱に各大学で様々な取り組みを実施してきました。「関西四大学薬物乱用防止連絡会」の設置・開催をはじめ、学生参加のキャンペーンを行い、さらに講演会も開催してきました。

こうした活動の一つとして、2009年10月から四大学共同の「薬物に関する意識調査」を行ってきました。この調査を継続して実施することにより、学生の薬物に対する意識と態度等、若年層における薬物事情の変遷を明らかにし、さらなる薬物乱用防止策の企画立案に役立てるだけでなく、社会に対して警鐘を鳴らすことができるのではないかと考えています。そして、今回、これまでの調査とその結果を踏まえて、再び、四大学の新生にアンケート調査を入学式直後に実施しました。その結果、新生たちが大学入学以前から薬物乱用防止に関する教育を受けていることやさまざまな形で薬物についての情報に接し、一方でごく少数であっても薬物に接触する危険性を示す数字が明らかになりました。

また、昨今では乱用した者が重篤な症状を起こして救急搬送されたり、重大な交通事故を引き起こしたりするなど社会問題化し、「危険ドラッグ」と総称された薬物について、政府は昨年4月から薬事法を改正し対策を強化しています。また、警察庁の調べでは危険ドラッグの年齢層別使用者検挙人員は20歳代が37.4%と一番多く、次いで30歳代が32.3%となっており、若者を中心とした乱用の広がりが伺え、今後の動向に着目していく必要があります。

関西四大学では、2009年10月の報告書から続くこの調査結果から目をそらすことなく、今後さらに慎重に検討を加え、引き続き薬物乱用防止のための教育活動を展開していきます。加えて、他の教育機関の諸活動においても今回の調査結果が役立つことを願っています。

2015年11月

関西大学学長 楠見 晴重

関西学院大学学長 村田 治

同志社大学学長 村田 晃嗣

立命館大学学長 吉田美喜夫

*本年度の本調査においては、昨今流通する違法薬物が多様化している実情に鑑み「大麻」や「危険ドラッグ」といった個別の薬物について聞くのではなく、共通質問4で示した薬物を「これらの薬物」と総称した上で意識調査を実施した。(質問5~23)

I 調査対象

対象者数 : 2015年度入学生 26,576名(関西四大学合計人数)
実施期間 : 各大学により定められた期間(2015年4月)
調査方法 : 紙媒体
回答数(率): 23,012名(86.6%)

II 集計結果

各質問への回答状況は、次ページ以降のグラフ及び集計表のとおりである。

また、今回の調査では昨今の薬物事情を踏まえ、新たな質問項目を設定のうえ調査を行った。(質問15、17、18、20、21、24)

◇ 質問3 あなたは、薬物乱用問題について関心がありますか。(1つに○)

<回答> 非常に関心がある 2.6%(前年度比+2.0%)
ある程度関心がある 31.2%(前年度比+4.4%)
どちらともいえない 23.4%(前年度比-0.6%)
あまり関心がない 15.5%(前年度比-2.5%)
ほとんど関心がない 26.9%(前年度比-1.7%)

「関心がある」と回答した層は2009年から減少傾向にあったが、本年度は増加した。逆に「関心がない」と回答した層は減少傾向にある結果となり、薬物問題への関心が上がったことが見受けられる。

◇ 質問4 あなたは、次の薬物の名前を知っていますか。(複数回答可)

<回答> いわゆる危険ドラッグ 76.5%(前年度比+25.1%)

昨年度まで「脱法ドラッグ」の名称で質問していたが、前年より更に認知度が上がり7割が知っていると回答している。これは近年、危険ドラッグが原因と見られる事件が多発し、頻繁にメディアに取り上げられた結果によるものと思われる。また、危険ドラッグへの名称変更においても、名称の認知度浸透がうかがえる。

◇ 質問13 あなたは、これらの薬物を使うことについてどのように考えていますか(1つに○)

<回答> どのような理由であれ、絶対に使うべきではないし、許されることではない
92.2%
他人に迷惑をかけないのであれば、使うかどうかは個人の自由である
6.0%

◇ 質問15 あなたは、これらの薬物を使用することや購入することを誘われたり、勧められたりすることが、これまでにありましたか。(1つに○)

<回答> 誘われたり、勧められたことはない 93.7%
購入を勧められたことがある 0.5%
使用を誘われたことがある 1.1%
わからない 3.2%

◇ 質問17 あなたの周囲に、これらの薬物を所持したり、使用している(いた)人がいますか。(1つに○)

<回答> いない 84.5%
いる(いた) 3.5%
わからない 9.7%

◇ 質問 18 【質問 17 で「2」に○をつけた人だけお答えください】

どの薬物でしたか。(複数回答可)

〈回答〉	1 有機溶剤(シンナー、トルエンなど)	18.4%
	2 覚せい剤(スピード、エスなど)	8.9%
	3 大麻(マリファナ、ハッシッシュなど)	30.0%
	4 麻薬	2.7%
	5 コカイン	3.8%
	6 あへん類(ヘロインなど)	0.9%
	7 LSD	0.6%
	8 MDMA(エクスタシーなど)	3.1%
	9 いわゆる危険ドラッグ(脱法ハーブなど)	14.7%
	10 わからない	34.8%

依然として大麻が流通していることがうかがえる。

◇ 質問 20 あなたは、これらの薬物に関する相談窓口があることを知っていますか。

(複数回答可)

〈回答〉	1 警察の相談窓口	24.7%
	2 行政機関の相談窓口(精神保健福祉センター等)	10.3%
	3 医療機関の相談窓口	16.0%
	4 民間の支援団体の相談窓口	7.4%
	5 知らない	58.0%

薬物に関する相談窓口について、5割以上が知らないと回答している。大学としてもこれらに関し情報発信を行っていく必要があると考える。

◇ 質問 21 あなたや、あなたのまわりの人がこれらの薬物に手を出さないように注意するために知りたいと思う情報は何か。(複数回答可)

〈回答〉	1 薬物乱用による健康被害情報	48.0%
	2 薬物乱用により引き起こされた事件・事故の事例情報	38.2%
	3 国や地方公共団体等の薬物乱用対策情報	12.8%
	4 医療機関や民間支援団体の取り組み情報	10.4%
	5 特になし	23.4%

◇ 質問 24 あなたは、薬事法の一部改正(平成 26 年 4 月 1 日施行)により、危険ドラッグと称される薬物や商品(脱法ハーブ、合法アロマリキッドなど)の多くが、使ったり、持っていたりすると罰則の対象となる薬物になったことを知っていますか。(1つに○)

〈回答〉	1 知っている	71.5%
	2 知らなかった	22.0%

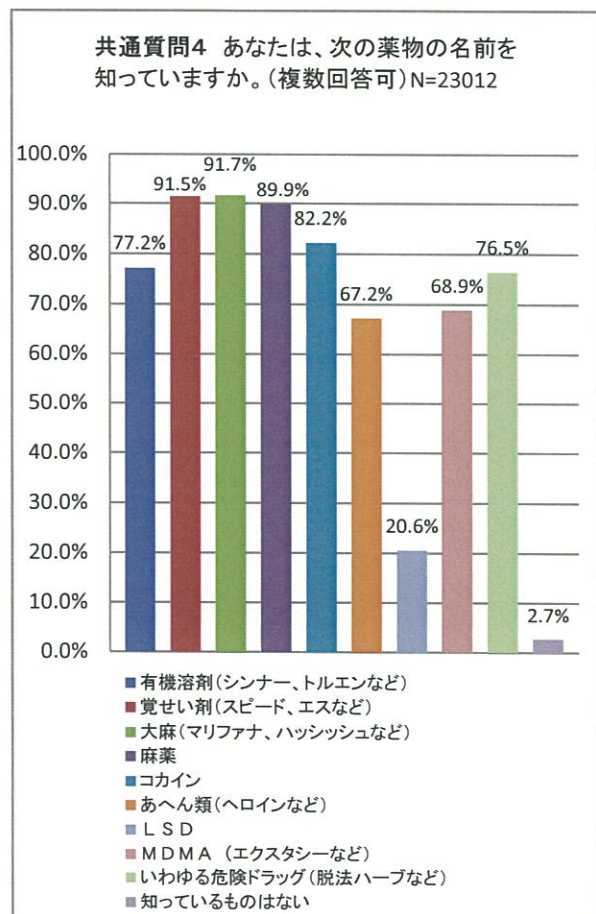
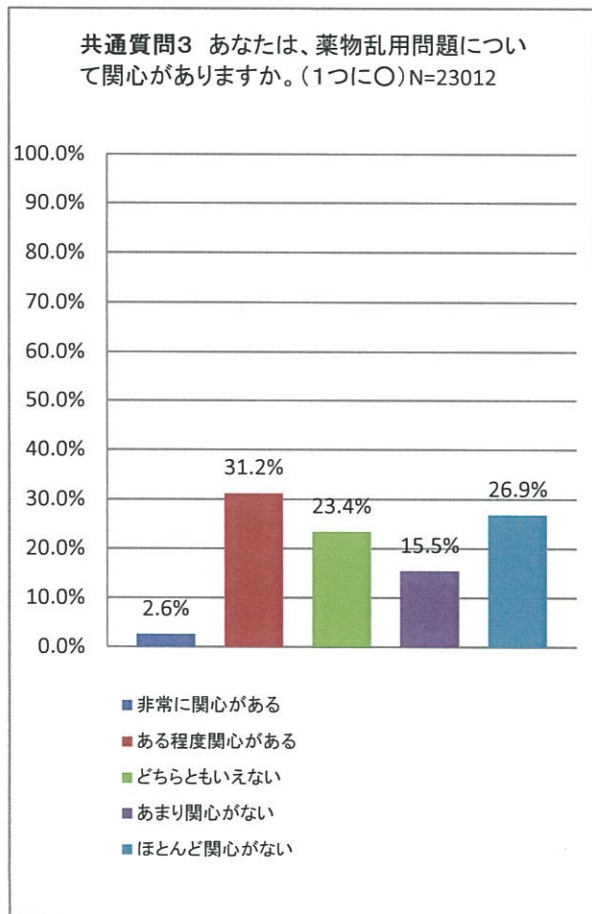
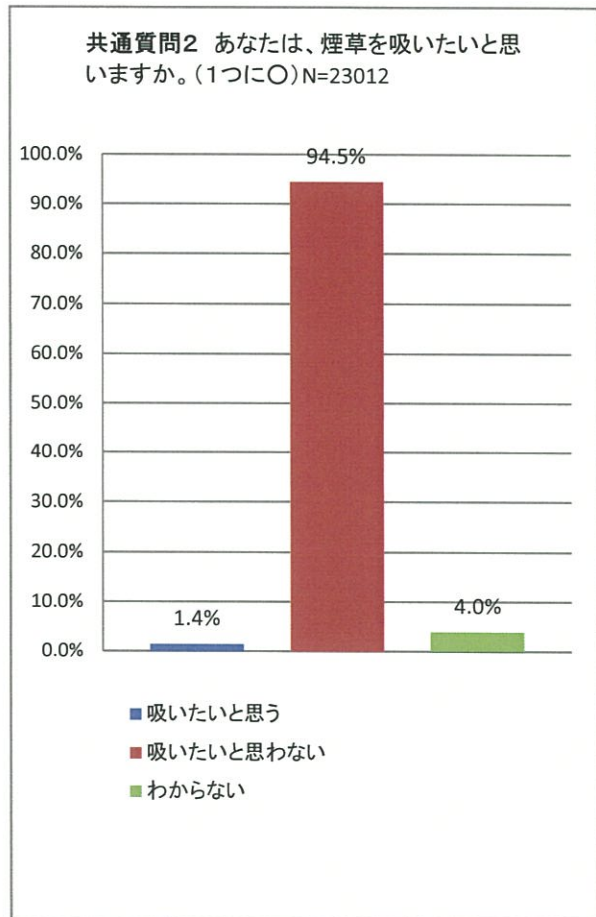
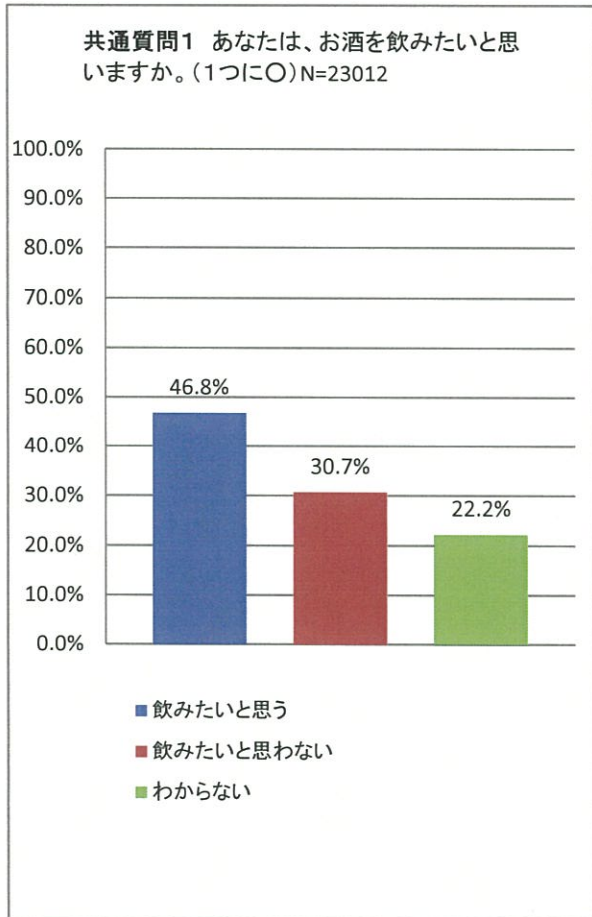
危険ドラッグに対する正しい知識を更に啓発していく必要がうかがえる。

上記から、学生は危険ドラッグを違法薬物と同等に危険な薬物であると認知していることが分かったが、一方で、使用については個人の自由であると捉える、または実際に使用しているところを目撃したことがある学生も存在することが分かった。

また、本年度から新たに追加した質問の内、質問 20・24 の結果からは薬物乱用防止の観点から必要な知識が新生生には不足していることが読み取れるとともに、質問 21 の結果は、学生に訴求力がある啓発活動を大学で策定する上での良い判断材料となっている。

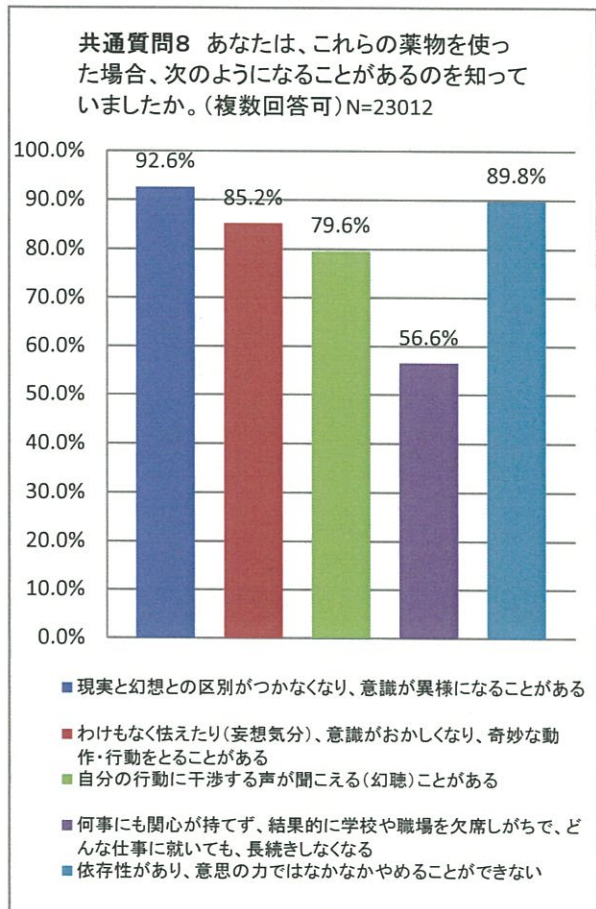
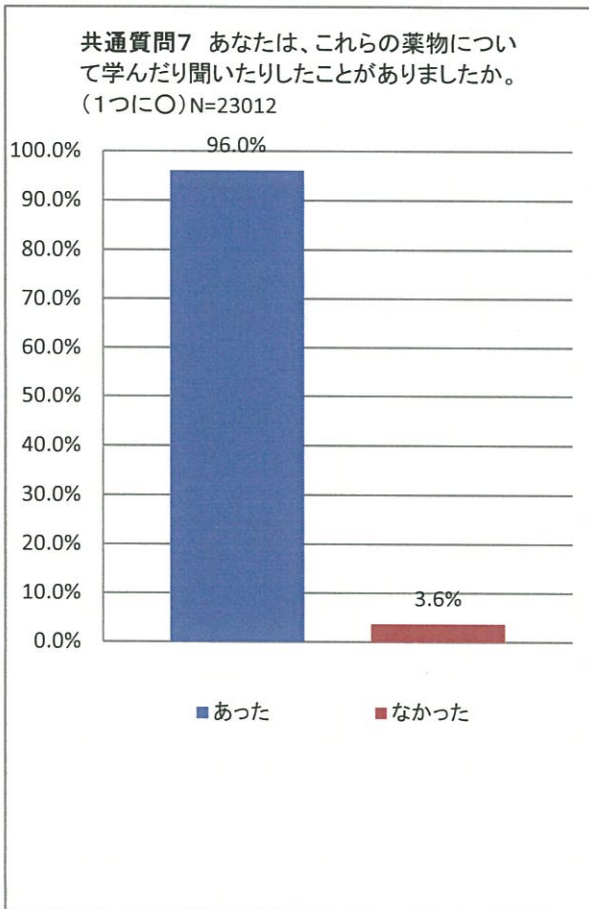
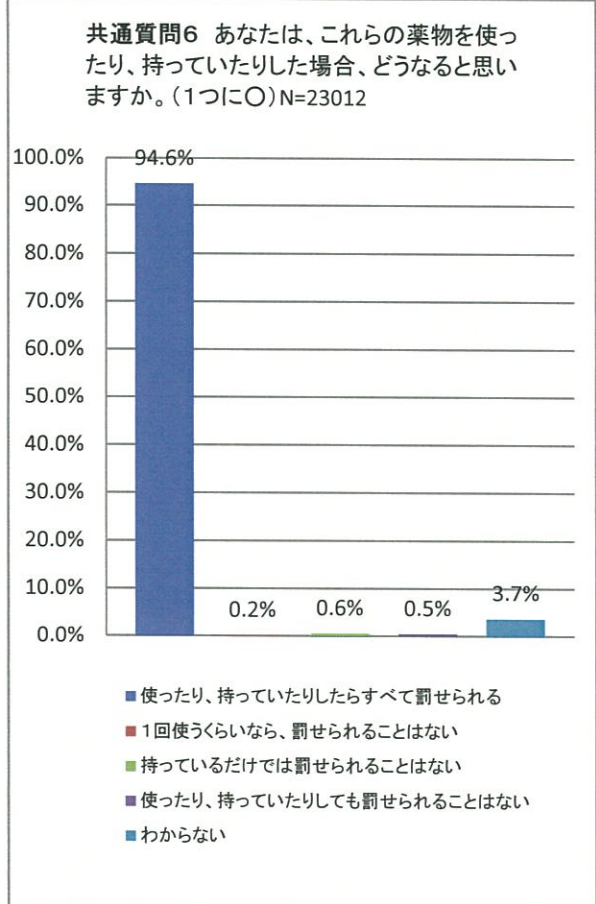
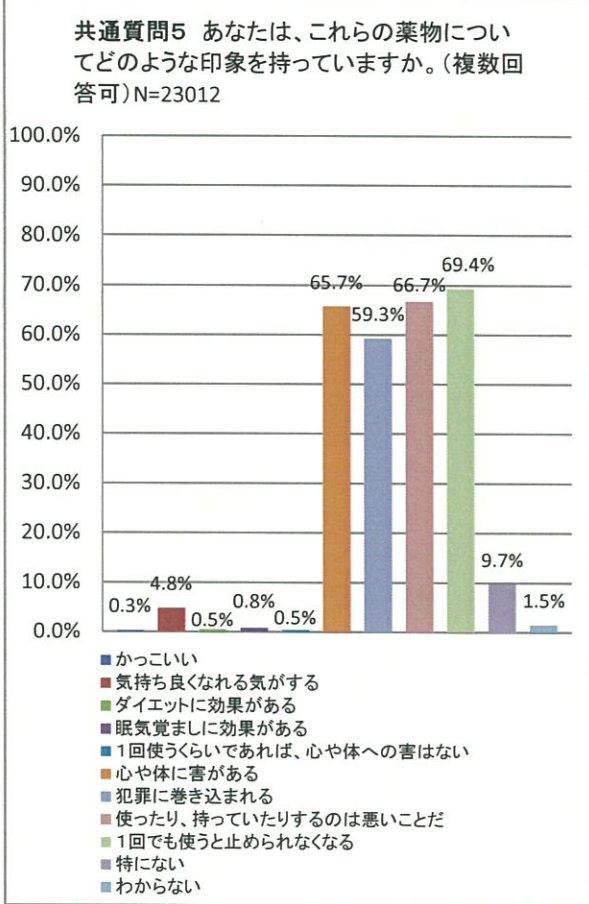
本結果から、薬物乱用問題に関し、社会的にどのような話題が取り上げられ、学生はどのような情報を得ているのか、その情報源や内容を分析し、さらに現在の学生に不足している知識を把握することで、各大学における効果的な啓発方法を検討していく必要があると考えられる。

2015年度 関西4大学「薬物に関する意識調査」

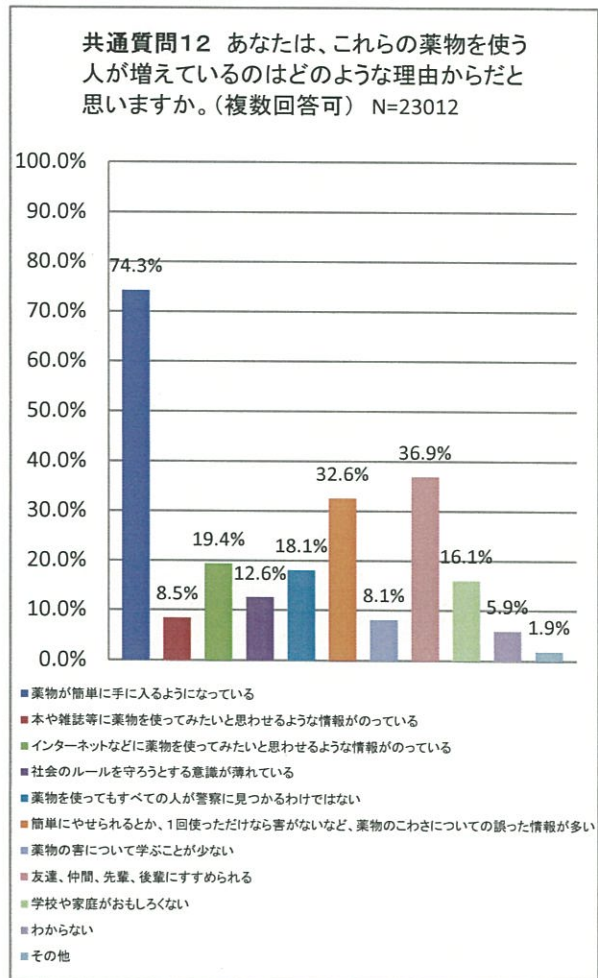
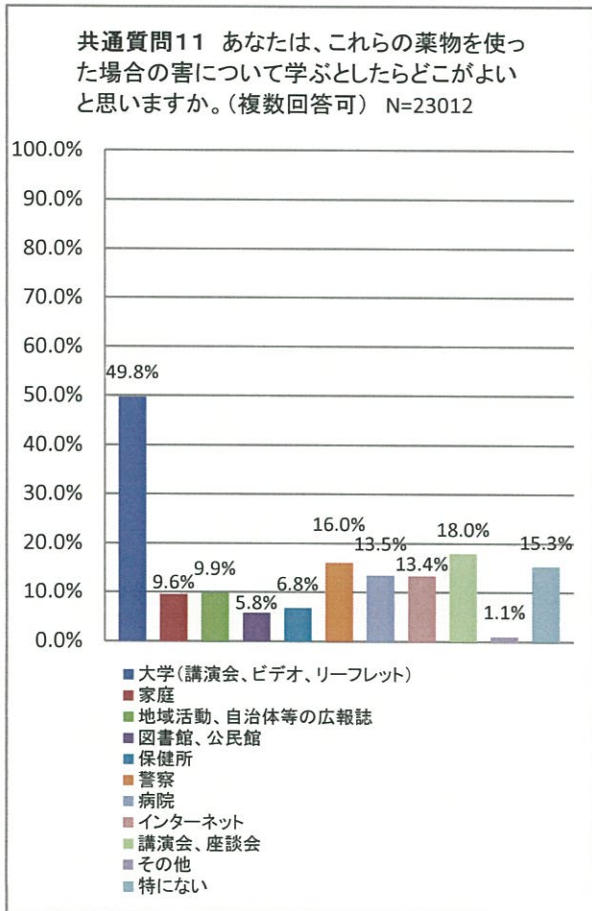
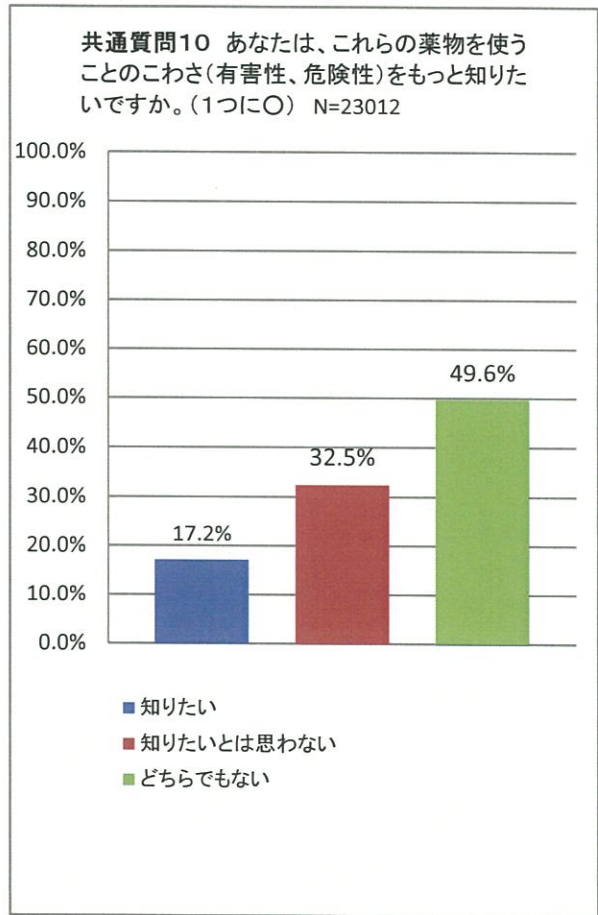
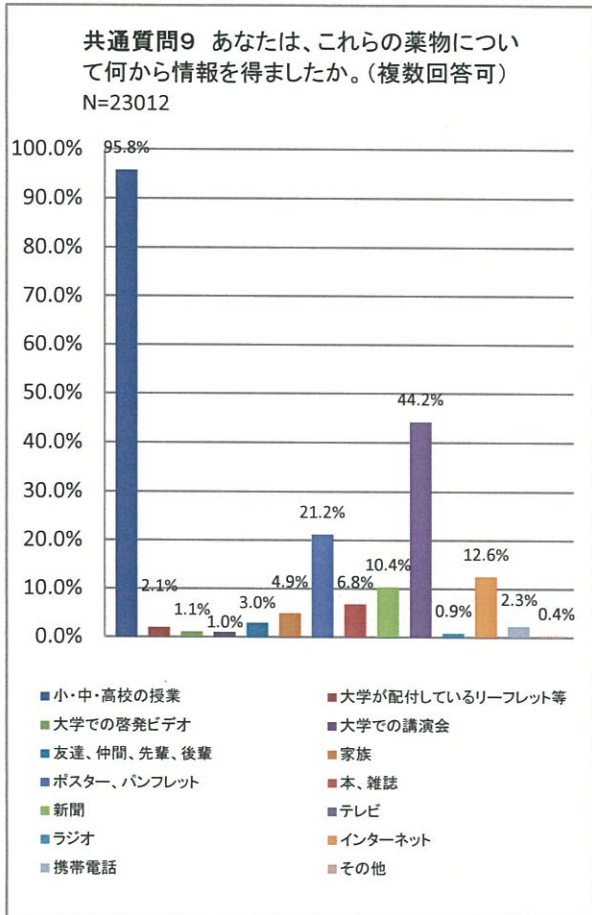


2015年度 関西4大学「薬物に関する意識調査」

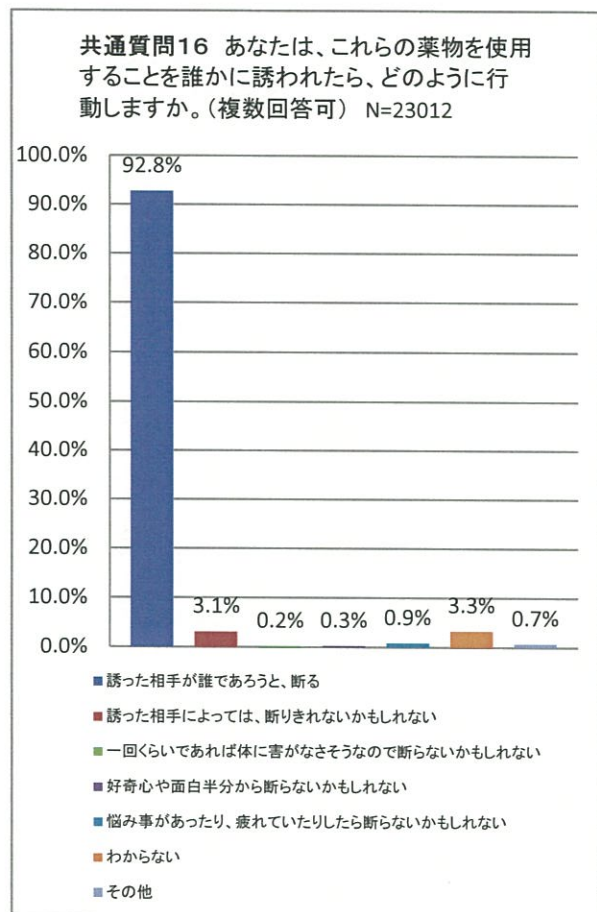
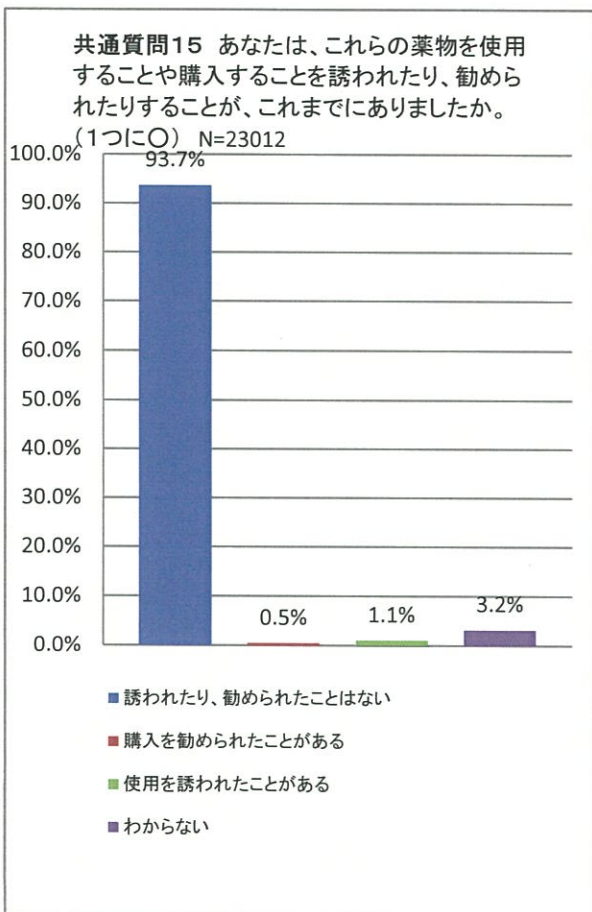
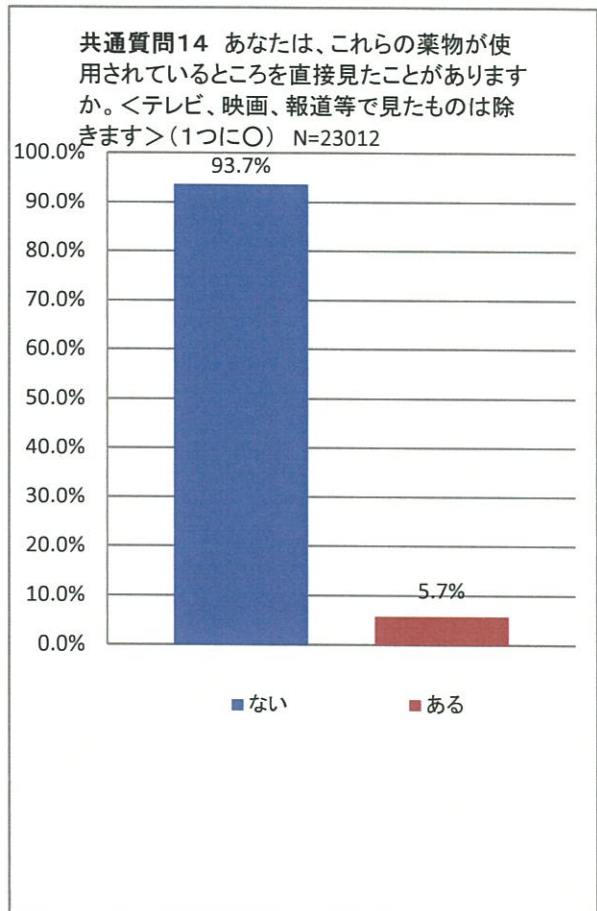
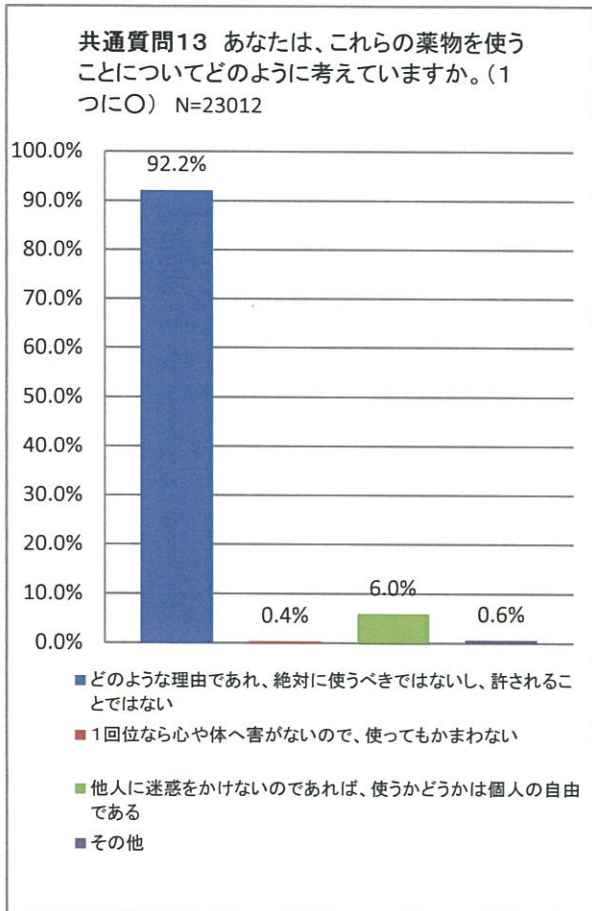
【次の質問以降は、質問4であげた薬物についてお聞きます。】



2015年度 関西4大学「薬物に関する意識調査」

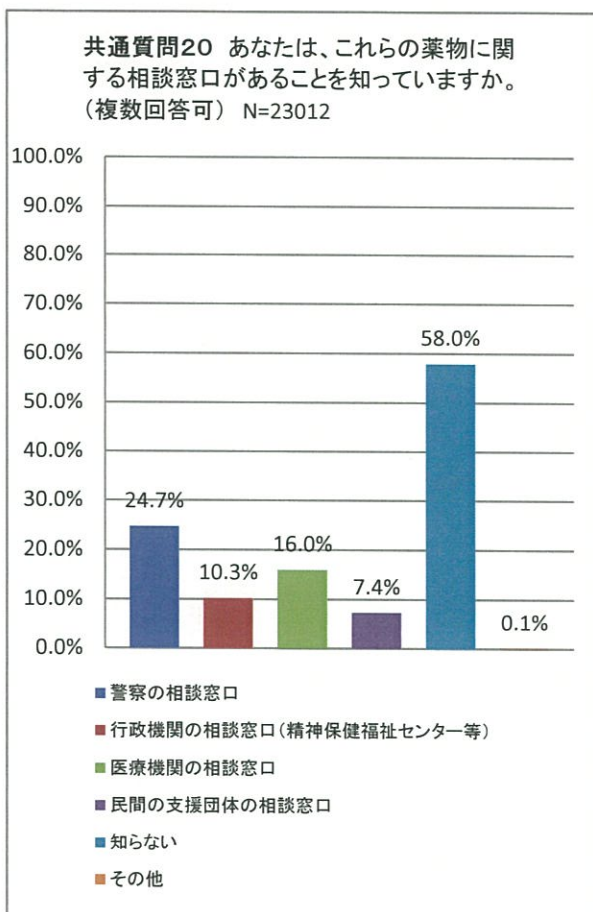
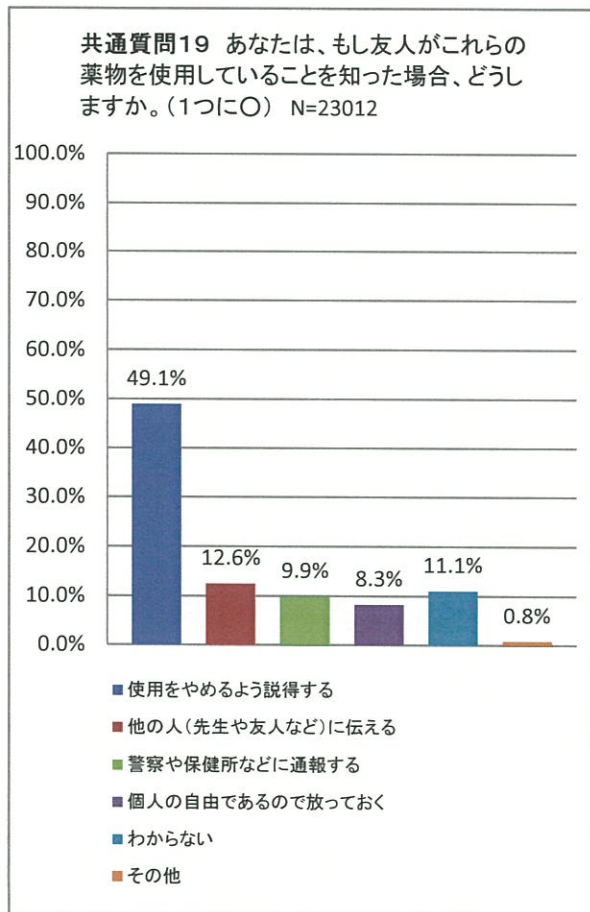
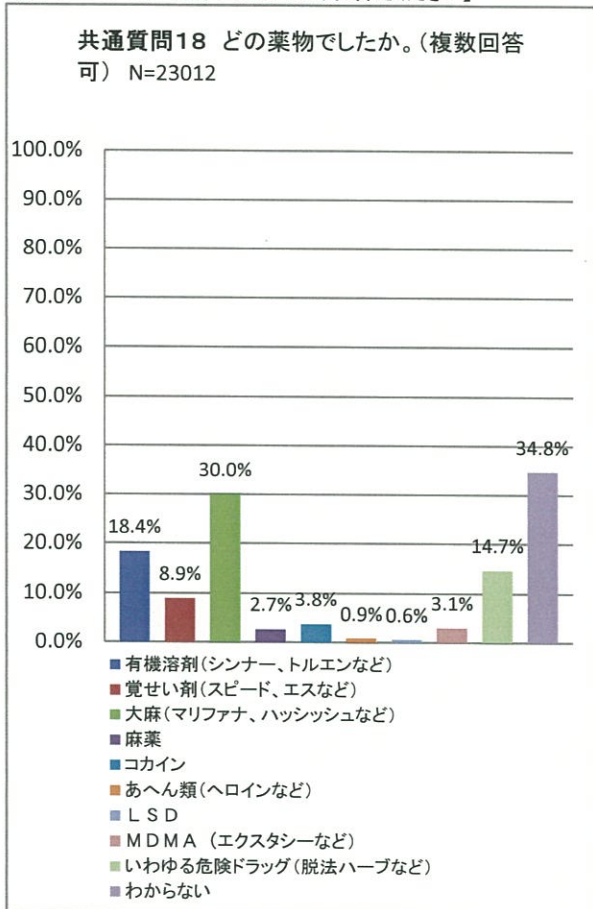
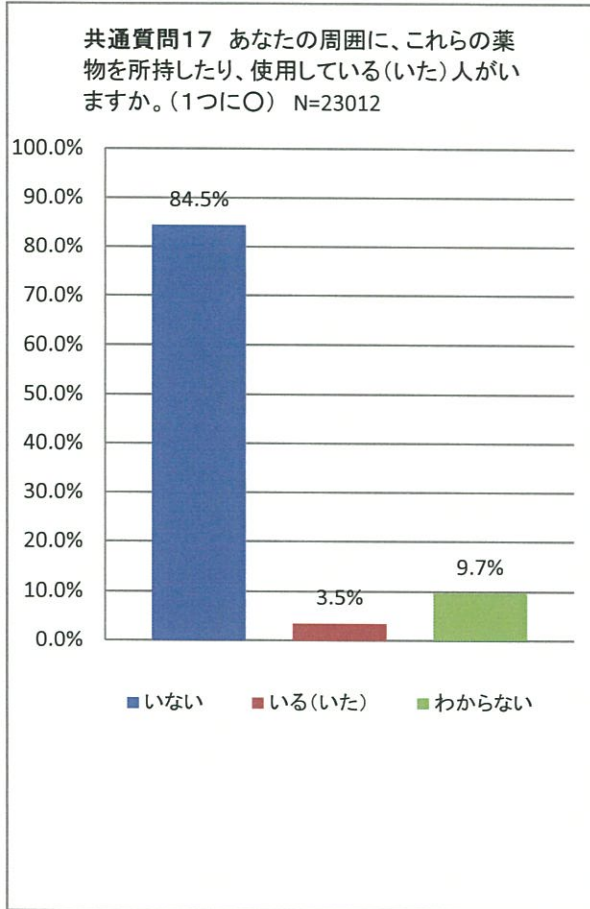


2015年度 関西4大学「薬物に関する意識調査」

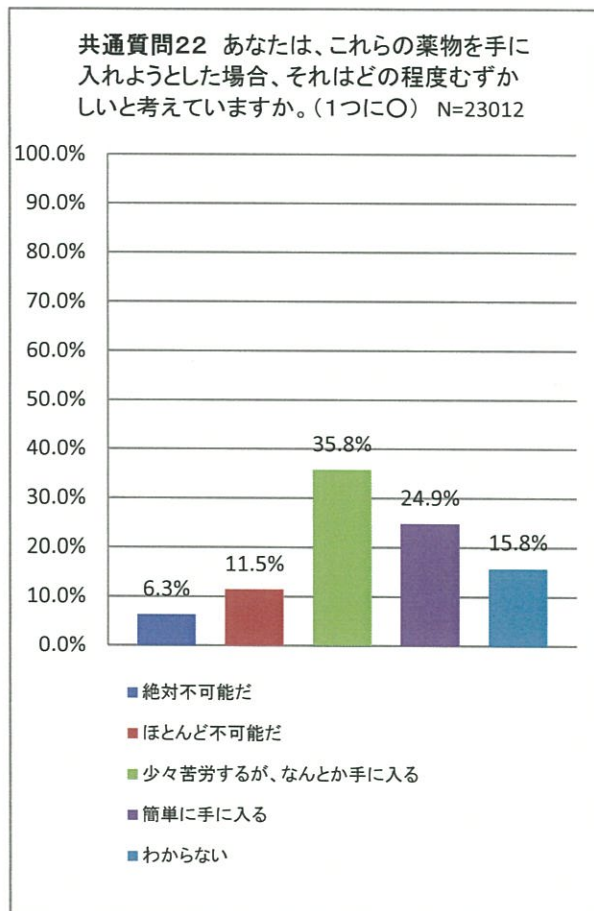
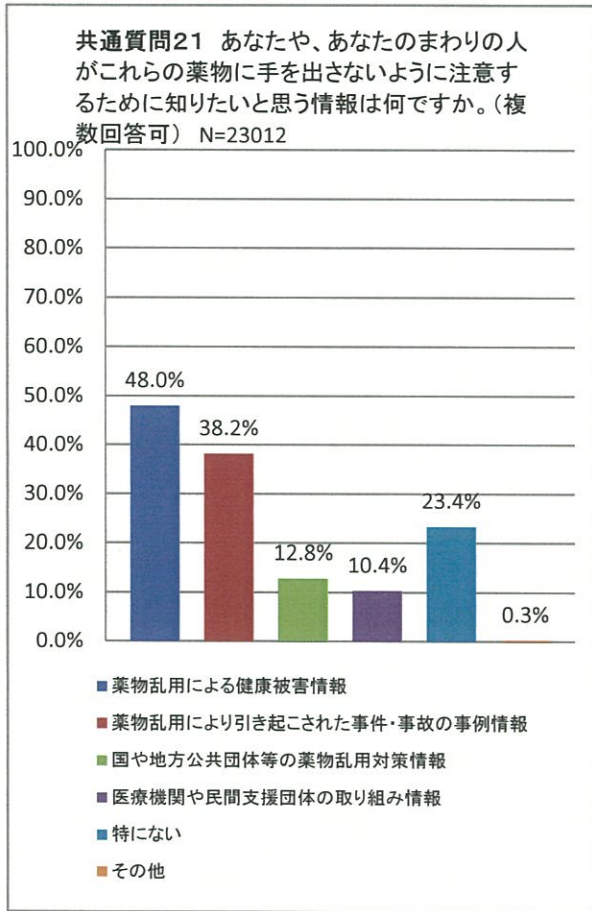


2015年度 関西4大学「薬物に関する意識調査」

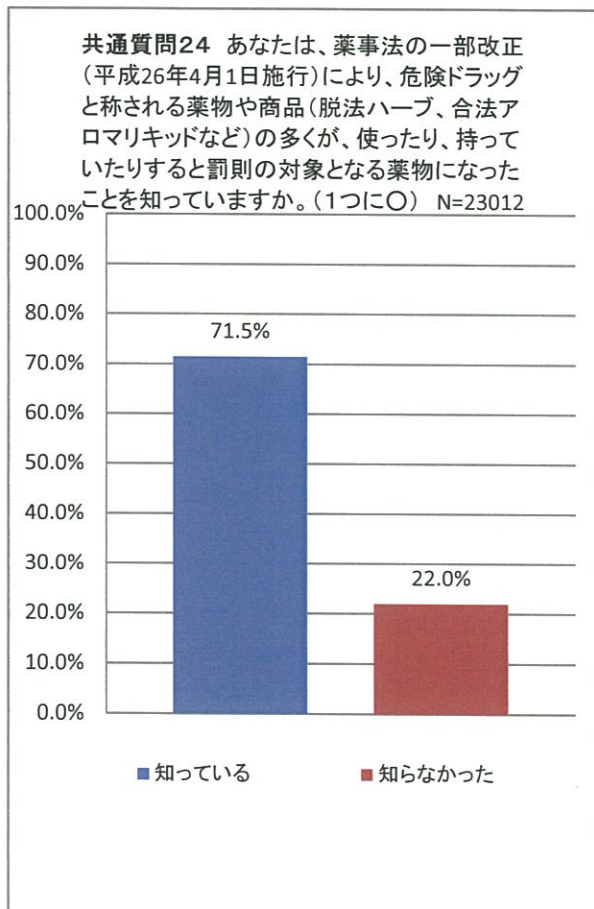
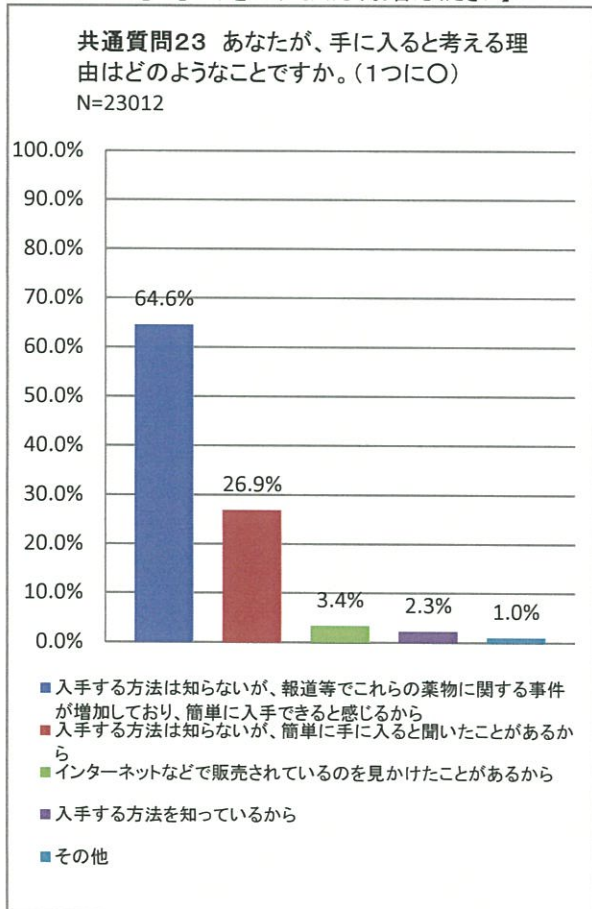
【質問17で「2」に○をつけた人だけお答えください】



2015年度 関西4大学「薬物に関する意識調査」



【質問22で「3」「4」に○をつけた人だけお答えください】



2015年度 関西4大学「薬物に関する意識調査」単純集計表

共通質問1 あなたは、お酒を飲みたいと思いますか。(1つに○)

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	飲みたいと思う	10770	46.8%	47%
2	飲みたいと思わない	7064	30.7%	31%
3	わからない	5115	22.2%	22%
	不明	63	0.3%	
	N(%ベース)	23012	100.0%	22949

共通質問2 あなたは、煙草を吸いたいと思いますか。(1つに○)

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	吸いたいと思う	330	1.4%	1%
2	吸いたいと思わない	21752	94.5%	95%
3	わからない	912	4.0%	4%
	不明	18	0.1%	
	N(%ベース)	23012	100.0%	22994

共通質問3 あなたは、薬物乱用問題について関心がありますか。(1つに○)

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	非常に関心がある	600	2.6%	3%
2	ある程度関心がある	7180	31.2%	31%
3	どちらともいえない	5394	23.4%	24%
4	あまり関心がない	3562	15.5%	16%
5	ほとんど関心がない	6188	26.9%	27%
	不明	88	0.4%	
	N(%ベース)	23012	100.0%	22924

共通質問4 あなたは、次の薬物の名前を知っていますか。(複数回答可)

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	有機溶剤(シンナー、トルエンなど)	17766	77.2%	-
2	覚せい剤(スピード、エスなど)	21051	91.5%	-
3	大麻(マリファナ、ハッシュシュなど)	21097	91.7%	-
4	麻薬	20686	89.9%	-
5	コカイン	18922	82.2%	-
6	あへん類(ヘロインなど)	15472	67.2%	-
7	LSD	4738	20.6%	-
8	MDMA(エクスタシーなど)	15856	68.9%	-
9	いわゆる危険ドラッグ(脱法ハーブなど)	17602	76.5%	-
10	知っているものはない	631	2.7%	-
	N(%ベース)	23012	100.0%	

2015年度 関西4大学「薬物に関する意識調査」単純集計表

【次の質問以降は、質問4であげた薬物についてお聞きします。】

共通質問5 あなたは、これらの薬物についてどのような印象を持っていますか。(複数回答可)

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	カッコいい	78	0.3%	-
2	気持ち良くなれる気がする	1113	4.8%	-
3	ダイエットに効果がある	115	0.5%	-
4	眠気覚ましに効果がある	185	0.8%	-
5	1回使うくらいであれば、心や体への害はない	107	0.5%	-
6	心や体に害がある	15121	65.7%	-
7	犯罪に巻き込まれる	13640	59.3%	-
8	使ったり、持っていたりするの悪いことだ	15345	66.7%	-
9	1回でも使うと止められなくなる	15959	69.4%	-
10	特にない	2243	9.7%	-
11	わからない	354	1.5%	-
	N(%ベース)	23012	100.0%	

共通質問6 あなたは、これらの薬物を使ったり、持っていたりした場合、どうなるとお考えですか。(1つに○)

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	使ったり、持っていたりしたらすべて罰せられる	21779	94.6%	95%
2	1回使うくらいなら、罰せられることはない	42	0.2%	0%
3	持っているだけでは罰せられることはない	130	0.6%	1%
4	使ったり、持っていたりしても罰せられることはない	117	0.5%	1%
5	わからない	846	3.7%	4%
	不明	98	0.4%	
	N(%ベース)	23012	100.0%	22914

共通質問7 あなたは、これらの薬物について学んだり聞いたりしたことがありますか。(1つに○)

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	あった	22097	96.0%	96%
2	なかった	837	3.6%	4%
	不明	78	0.3%	
	N(%ベース)	23012	100.0%	22934

共通質問8 あなたは、これらの薬物を使った場合、次のようになることがあるのを知っていましたか。(複数回答可)

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	現実と幻想との区別がつかなくなり、意識が異様になることがある	21317	92.6%	-
2	わけもなく怯えたり(妄想気分)、意識がおかしくなり、奇妙な動作・行動をとることがある	19614	85.2%	-
3	自分の行動に干渉する声が聞こえる(幻聴)ことがある	18315	79.6%	-
4	何事にも関心が持てず、結果的に学校や職場を欠席しがちで、どんな仕事に就いても、長続きしなくなる	13025	56.6%	-
5	依存性があり、意思の力ではなかなかやめることができない	20658	89.8%	-
	N(%ベース)	23012	100.0%	

2015年度 関西4大学「薬物に関する意識調査」単純集計表

共通質問9 あなたは、これらの薬物について何から情報を得ましたか。(複数回答可)

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	小・中・高校の授業	22043	95.8%	-
2	大学が配付しているリーフレット等	474	2.1%	-
3	大学での啓発ビデオ	252	1.1%	-
4	大学での講演会	236	1.0%	-
5	友達、仲間、先輩、後輩	695	3.0%	-
6	家族	1128	4.9%	-
7	ポスター、パンフレット	4885	21.2%	-
8	本、雑誌	1573	6.8%	-
9	新聞	2394	10.4%	-
10	テレビ	10168	44.2%	-
11	ラジオ	205	0.9%	-
12	インターネット	2893	12.6%	-
13	携帯電話	523	2.3%	-
14	その他	89	0.4%	-
	N(%ベース)	23012	100.0%	

共通質問10 あなたは、これらの薬物を使うことのこわさ(有害性、危険性)をもっと知りたいですか。(1つに○)

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	知りたい	3952	17.2%	17%
2	知りたいとは思わない	7474	32.5%	33%
3	どちらでもない	11424	49.6%	50%
	不明	162	0.7%	
	N(%ベース)	23012	100.0%	22850

共通質問11 あなたは、これらの薬物を使った場合の害について学ぶとしたらどこがよいと思いますか。(複数回答可)

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	大学(講演会、ビデオ、リーフレット)	11453	49.8%	-
2	家庭	2203	9.6%	-
3	地域活動、自治体等の広報誌	2279	9.9%	-
4	図書館、公民館	1332	5.8%	-
5	保健所	1559	6.8%	-
6	警察	3685	16.0%	-
7	病院	3114	13.5%	-
8	インターネット	3085	13.4%	-
9	講演会、座談会	4135	18.0%	-
10	その他	244	1.1%	-
11	特にない	3532	15.3%	-
	N(%ベース)	23012	100.0%	

2015年度 関西4大学「薬物に関する意識調査」単純集計表

共通質問12 あなたは、これらの薬物を使う人が増えているのはどのような理由からだと思いますか。(複数回答可)

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	薬物が簡単に手に入るようになっている	17099	74.3%	-
2	本や雑誌等に薬物を使ってみたいと思わせるような情報がのっている	1949	8.5%	-
3	インターネットなどに薬物を使ってみたいと思わせるような情報がのっている	4466	19.4%	-
4	社会のルールを守ろうとする意識が薄れている	2899	12.6%	-
5	薬物を使ってもすべての人が警察に見つかるわけではない	4176	18.1%	-
6	簡単にやせられるとか、1回使っただけなら害がないなど、薬物のこわさについての誤った情報が多い	7493	32.6%	-
7	薬物の害について学ぶことが少ない	1873	8.1%	-
8	友達、仲間、先輩、後輩にすすめられる	8495	36.9%	-
9	学校や家庭がおもしろくない	3708	16.1%	-
10	わからない	1362	5.9%	-
11	その他	432	1.9%	-
	N(%ベース)	23012	100.0%	

共通質問13 あなたは、これらの薬物を使うことについてどのように考えていますか。(1つに○)

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	どのような理由であれ、絶対に使うべきではないし、許されることではない	21216	92.2%	93%
2	1回位なら心や体へ害がないので、使ってもかまわない	84	0.4%	0%
3	他人に迷惑をかけないのであれば、使うかどうかは個人の自由である	1380	6.0%	6%
4	その他	146	0.6%	1%
	不明	186	0.8%	
	N(%ベース)	23012	100.0%	22826

共通質問14 あなたは、これらの薬物が使用されているところを直接見たことがありますか。

<テレビ、映画、報道等で見たものは除きます>(どちらかに○)

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	ない	21561	93.7%	94%
2	ある	1321	5.7%	6%
	不明	130	0.6%	
	N(%ベース)	23012	100.0%	22882

共通質問15 あなたは、これらの薬物を使用することや購入することを誘われたり、勧められたりすることが、

これまでにありましたか。(1つに○)

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	誘われたり、勧められたことはない	21572	93.7%	95%
2	購入を勧められたことがある	119	0.5%	1%
3	使用を誘われたことがある	249	1.1%	1%
4	わからない	743	3.2%	3%
	不明	329	1.4%	
	N(%ベース)	23012	100.0%	22683

共通質問16 あなたは、これらの薬物を使用することを誰かに誘われたら、どのように行動しますか。(複数回答可)

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	誘った相手が誰であろうと、断る	21344	92.8%	-
2	誘った相手によっては、断りきれないかもしれない	724	3.1%	-
3	一回くらいであれば体に害がなさそうなので断らないかもしれない	53	0.2%	-
4	好奇心や面白半分から断らないかもしれない	66	0.3%	-
5	悩み事があつたり、疲れていたりしたら断らないかもしれない	203	0.9%	-
6	わからない	767	3.3%	-
7	その他	172	0.7%	-
	N(%ベース)	23012	100.0%	

2015年度 関西4大学「薬物に関する意識調査」単純集計表

共通質問17 あなたの周囲に、これらの薬物を所持したり、使用している(いた)人がいますか。(1つに○)

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	いない	19441	84.5%	86%
2	いる(いた)	816	3.5%	4%
3	わからない	2235	9.7%	10%
	不明	520	2.3%	
	N(%ベース)	23012	100.0%	22492

【質問17で「2」に○をつけた人だけお答えください】

共通質問18 どの薬物でしたか。(複数回答可)

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	有機溶剤(シンナー、トルエンなど)	150	18.4%	-
2	覚せい剤(スピード、エスなど)	73	8.9%	-
3	大麻(マリファナ、ハッシュシュなど)	245	30.0%	-
4	麻薬	22	2.7%	-
5	コカイン	31	3.8%	-
6	あへん類(ヘロインなど)	7	0.9%	-
7	LSD	5	0.6%	-
8	MDMA(エクスタシーなど)	25	3.1%	-
9	いわゆる危険ドラッグ(脱法ハーブなど)	120	14.7%	-
10	わからない	284	34.8%	-
	N(%ベース)	816	100.0%	

共通質問19 あなたは、もし友人がこれらの薬物を使用していることを知った場合、どうしますか。(1つに○)

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	使用をやめるよう説得する	11289	49.1%	53%
2	他の人(先生や友人など)に伝える	2891	12.6%	14%
3	警察や保健所などに通報する	2285	9.9%	11%
4	個人の自由であるので放っておく	1914	8.3%	9%
5	わからない	2551	11.1%	12%
6	その他	188	0.8%	1%
	不明	1894	8.2%	
	N(%ベース)	23012	100.0%	21118

共通質問20 あなたは、これらの薬物に関する相談窓口があることを知っていますか。(複数回答可)

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	警察の相談窓口	5682	24.7%	-
2	行政機関の相談窓口(精神保健福祉センター等)	2368	10.3%	-
3	医療機関の相談窓口	3678	16.0%	-
4	民間の支援団体の相談窓口	1695	7.4%	-
5	知らない	13356	58.0%	-
6	その他	23	0.1%	-
	N(%ベース)	23012	100.0%	

2015年度 関西4大学「薬物に関する意識調査」単純集計表

共通質問21 あなたや、あなたのまわりの人がこれらの薬物に手を出さないように注意するために知りたいと思う情報は何か。(複数回答可)

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	薬物乱用による健康被害情報	11038	48.0%	-
2	薬物乱用により引き起こされた事件・事故の事例情報	8780	38.2%	-
3	国や地方公共団体等の薬物乱用対策情報	2949	12.8%	-
4	医療機関や民間支援団体の取り組み情報	2393	10.4%	-
5	特になし	5380	23.4%	-
6	その他	62	0.3%	-
	N(%ベース)	23012	100.0%	

共通質問22 あなたは、これらの薬物を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいと考えていますか。(1つに○)

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	絶対不可能だ	1457	6.3%	7%
2	ほとんど不可能だ	2641	11.5%	12%
3	少々苦勞するが、なんとか手に入る	8232	35.8%	38%
4	簡単に手に入る	5731	24.9%	26%
5	わからない	3641	15.8%	17%
	不明	1310	5.7%	
	N(%ベース)	23012	100.0%	21702

【質問22で「3」「4」に○をつけた人だけお答えください】

共通質問23 あなたが、手に入ると考える理由はどのようなことですか。(1つに○)

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	入手する方法は知らないが、報道等でこれらの薬物に関する事件が増加しており、簡単に入手できると感じるから	9021	64.6%	66%
2	入手する方法は知らないが、簡単に手に入ると聞いたことがあるから	3756	26.9%	27%
3	インターネットなどで販売されているのを見かけたことがあるから	471	3.4%	3%
4	入手する方法を知っているから	317	2.3%	2%
5	その他	146	1.0%	1%
	不明	252	1.8%	
	N(%ベース)	13963	100.0%	13711

共通質問24 あなたは、薬事法の一部改正(平成26年4月1日施行)により、危険ドラッグと称される薬物や商品(脱法ハーブ、合法アロマリキッドなど)の多くが、使ったり、持っていたりすると罰則の対象となる薬物になったことを知っていますか。(1つに○)

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	知っている	16458	71.5%	76%
2	知らなかった	5060	22.0%	24%
	不明	1494	6.5%	
	N(%ベース)	23012	100.0%	21518

※【注】(除不)とは、不明を除くの意味。